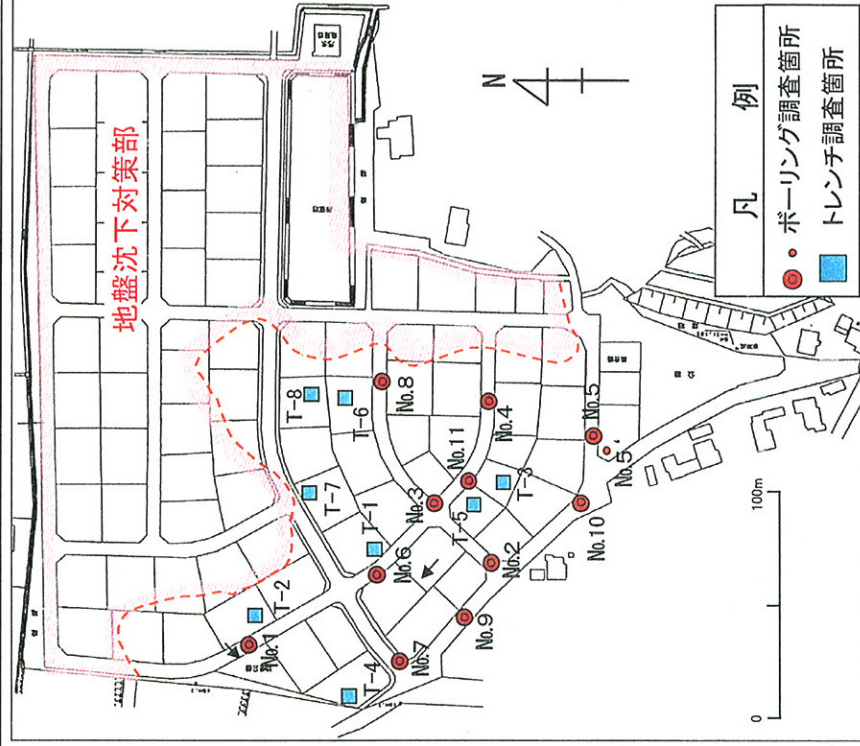


4. 地盤沈下対策部外の宅地地盤に関する地質等調査

地盤沈下対策部外のボーリング等調査位置

平成14年度及び15年度において、地盤沈下対策部外の道路上でボーリング11箇所（径116mm、平均掘削長5.3m（基盤部分平均2.1mを含む。））、宅地内でトレンチ調査8箇所をそれぞれ実施した。ボーリング調査は宅地地盤の地質状況、トレンチ調査は造成工事に伴うゴミの有無についてそれぞれ確認することを目的とした。

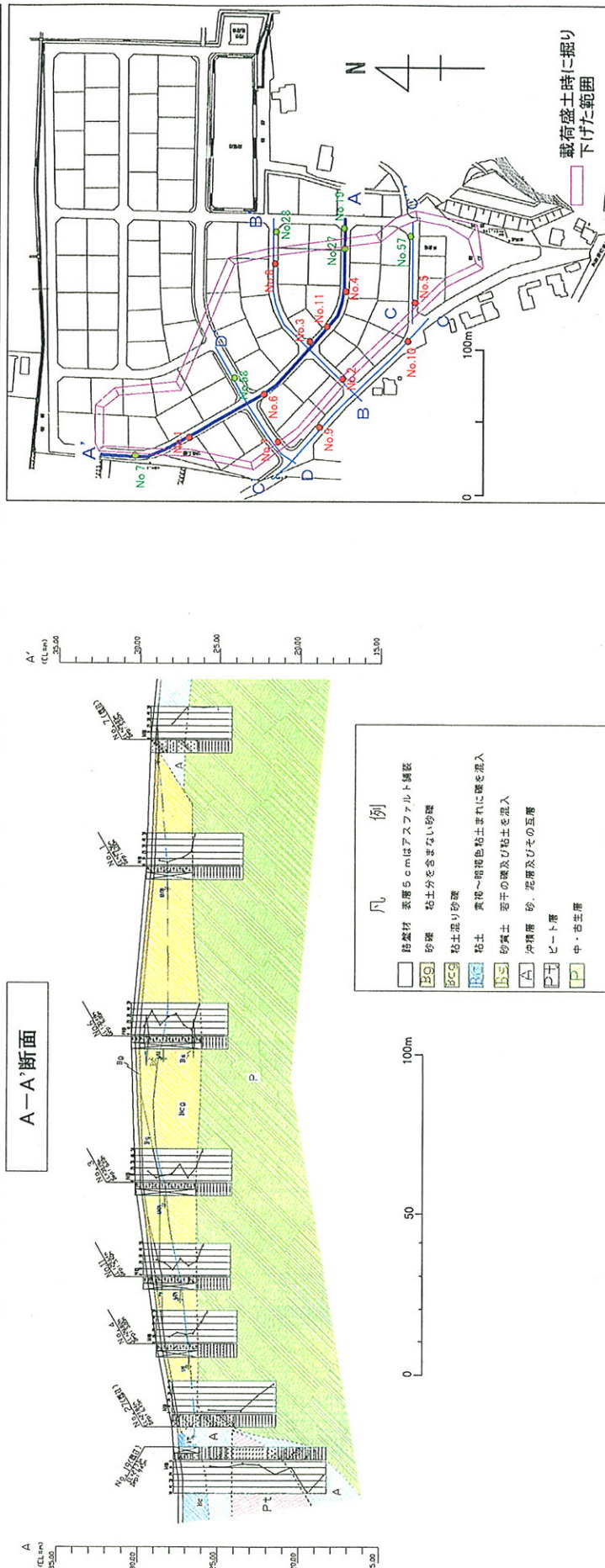


地盤沈下対策部外の宅地地盤における地質性状

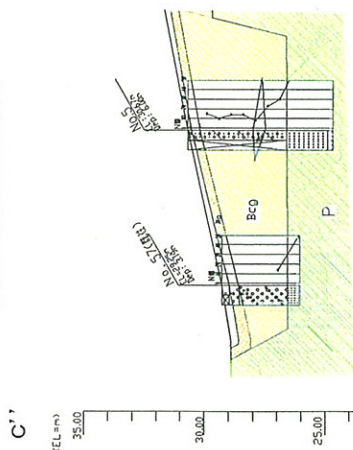
ボーリングのデータから、地盤沈下対策部外の宅地地盤の造成工事（盛土）の範囲の地質は以下のとおりである。

①盛土の地質は、約90%が砂礫、砂質土、粘土混じりの砂礫である。ボーリングデータによれば部分的に10～55cmの厚さで粘土が挟在しているが、地盤沈下対策部における沈下の原因である高有機質土ではない。

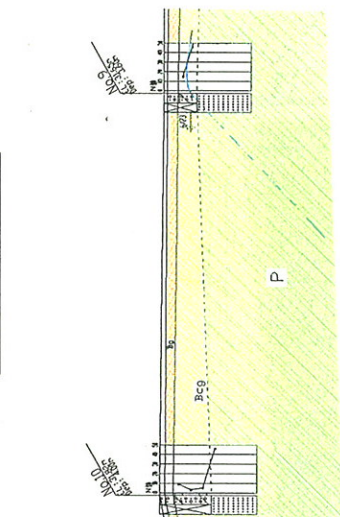
②盛土中での標準貫入試験によれば、N値は3～37である。
なお、基盤部分は美濃帯に属する中・古生層の岩盤で、十分な強度を有する。



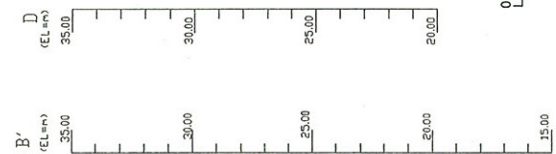
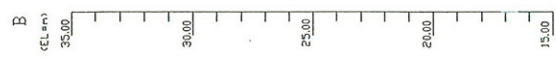
C'-C'断面



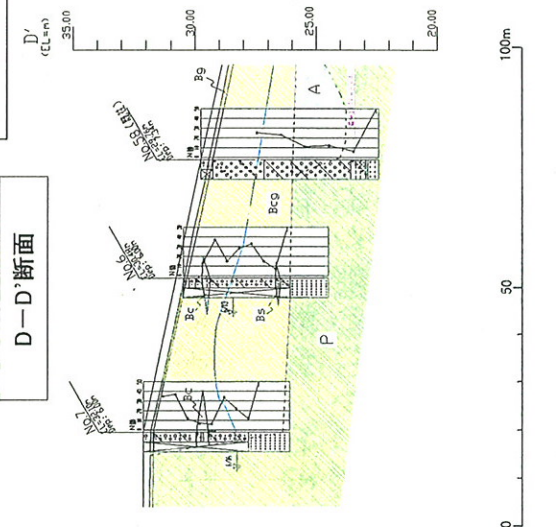
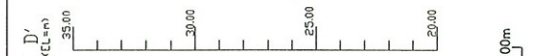
C-C'断面



B-B'断面

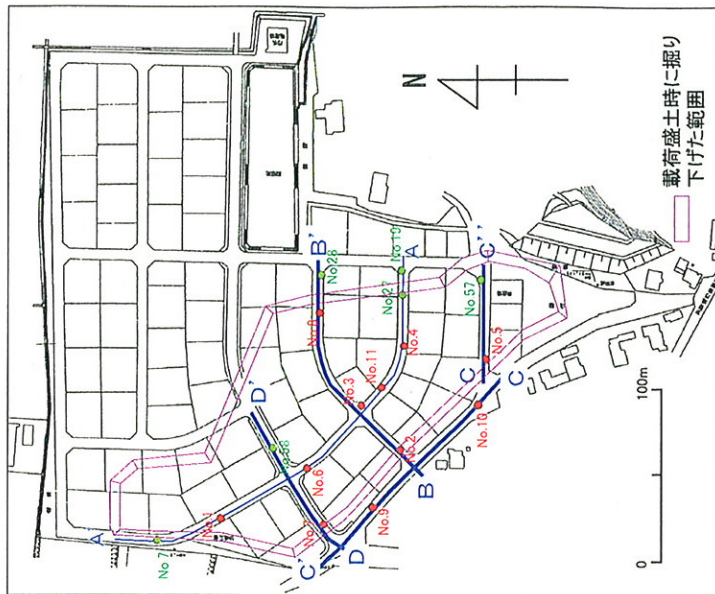


D-D'断面



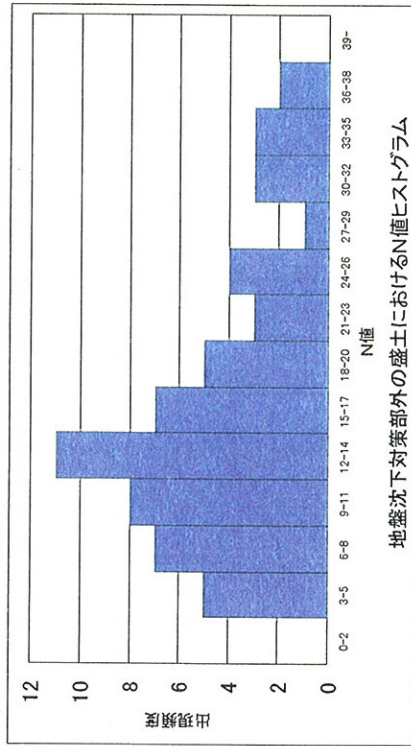
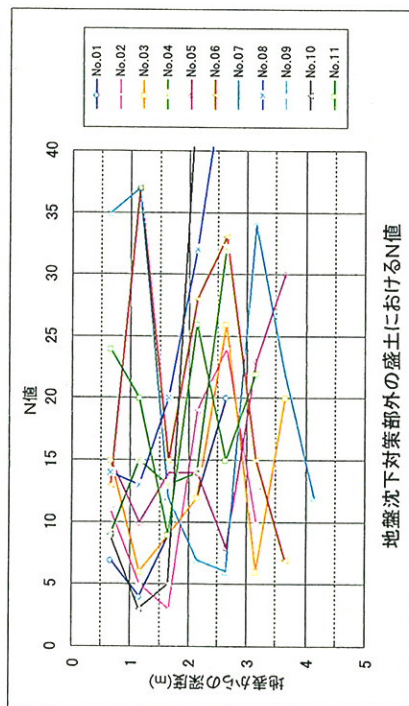
凡 例

基礎材	表層5cmはアスファルト舗装
砂礫	粘土分を含まない砂礫
砂	粘土混り砂
粘土	風化~暗褐色粘土に礫を混入
砂質土	礫の混入を認めない砂質土
砂	礫の混入を認めない砂
中粒層	砂 泥層及びその互層
粘土層	粘土層及びその互層
中・古土層	

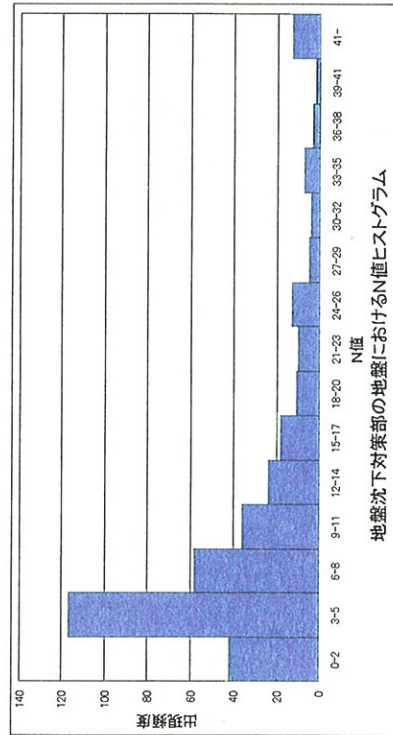
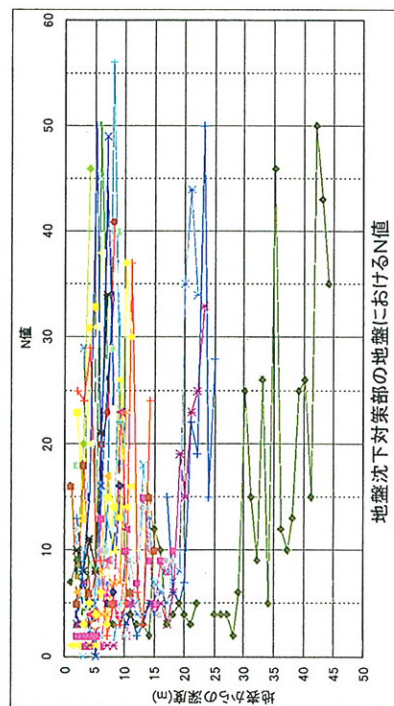


載荷盛土時に掘り下げた範囲

○地盤沈下対策部外の盛土におけるN値

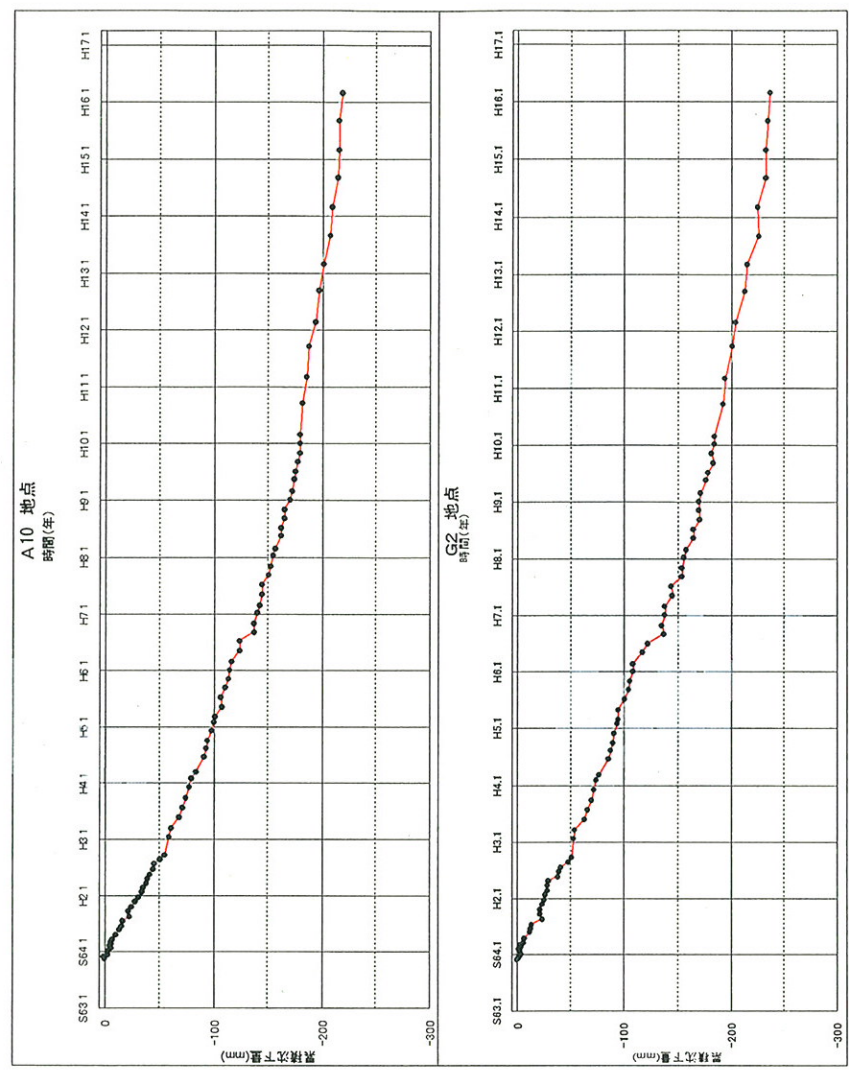
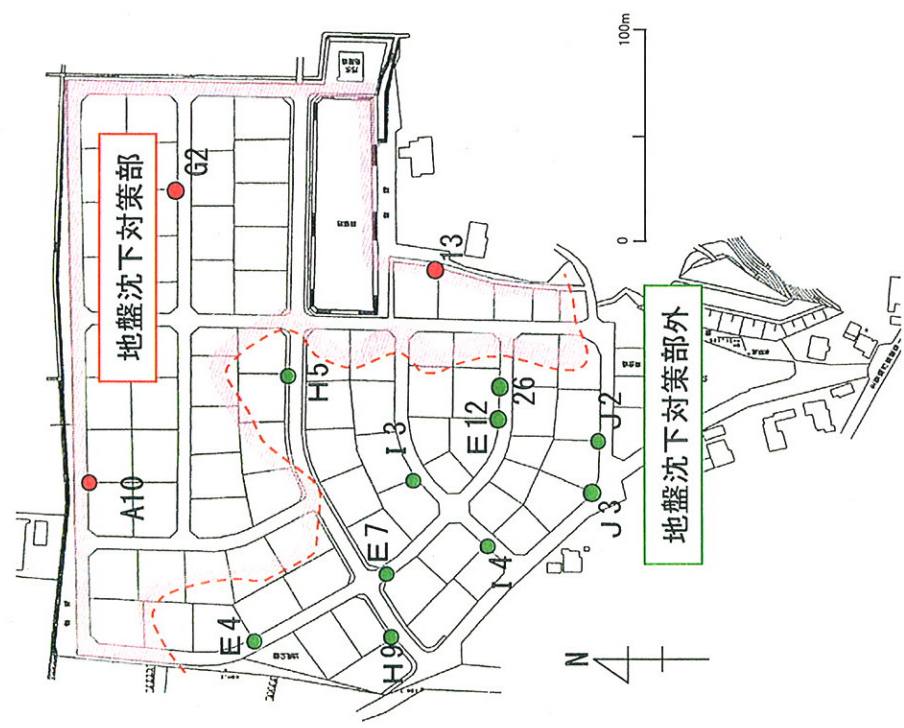


○地盤沈下対策部の地盤におけるN値



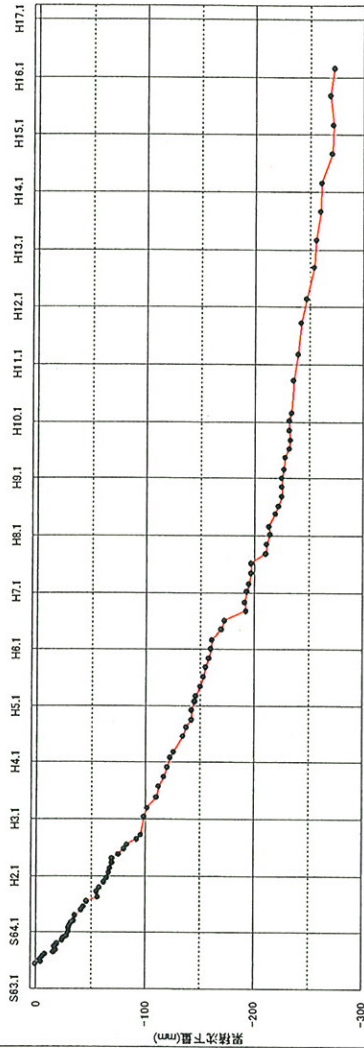
動態観測結果

集団移転地文殊地区において、昭和63年から地盤の変化を把握するため、動態観測調査を実施している。観測の結果、地盤沈下対策部においては、想定外の地盤沈下の継続が判明したが、地盤沈下対策部外においてはその傾向が見られない。なお、動態観測調査は現在も継続して実施している。



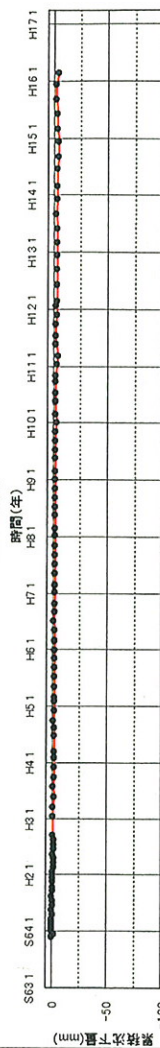
地盤沈下対策部の代表的な地点における地盤変位図

13 地点
時間(年)

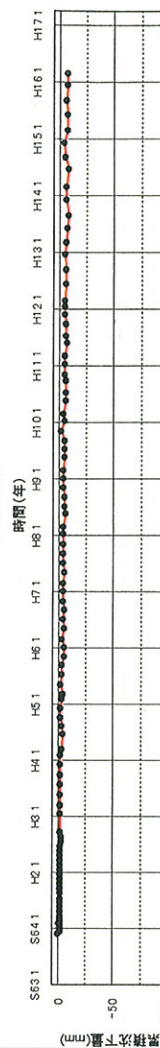


地盤沈下対策部の代表的な地点における地盤変位図

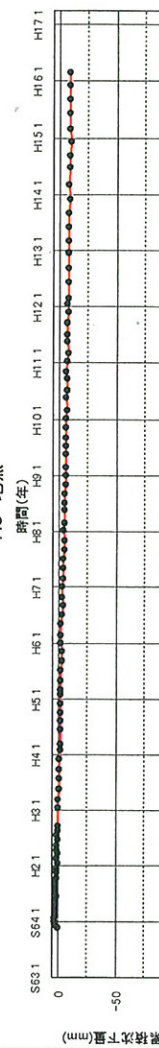
E4 地点
時間(年)



H5 地点
時間(年)



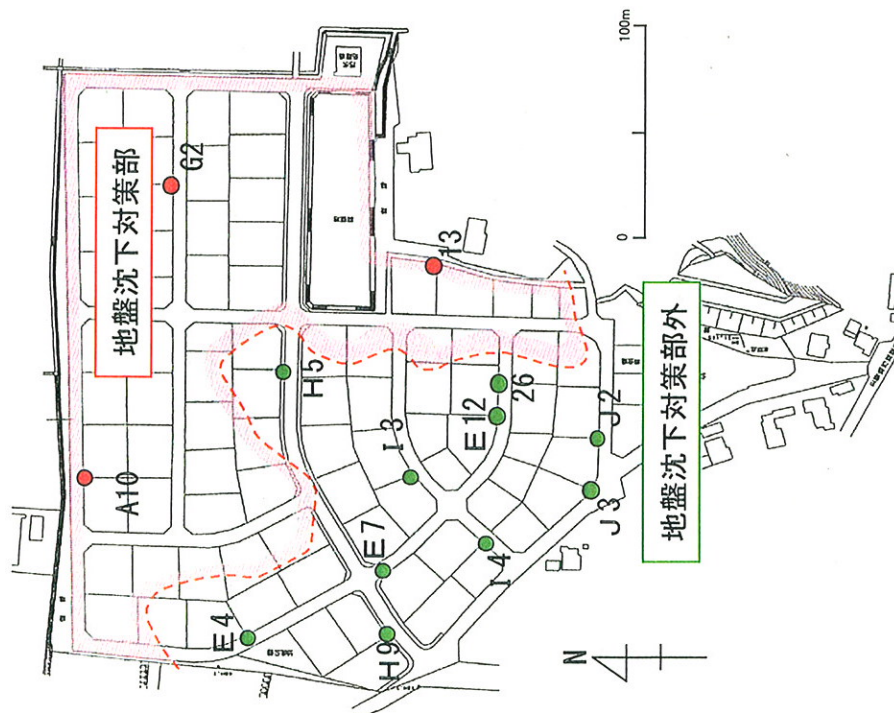
H9 地点
時間(年)

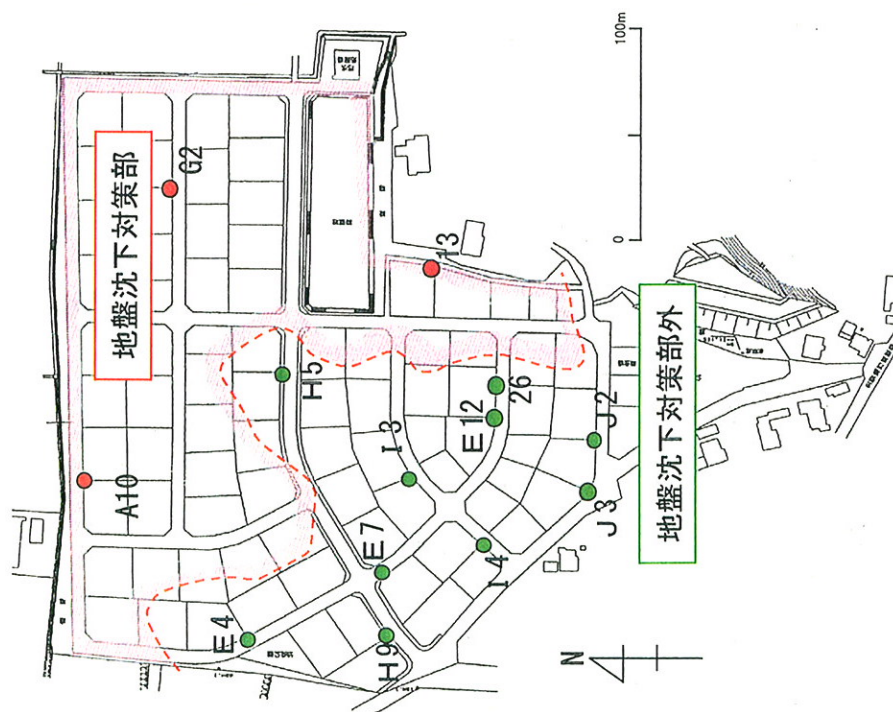
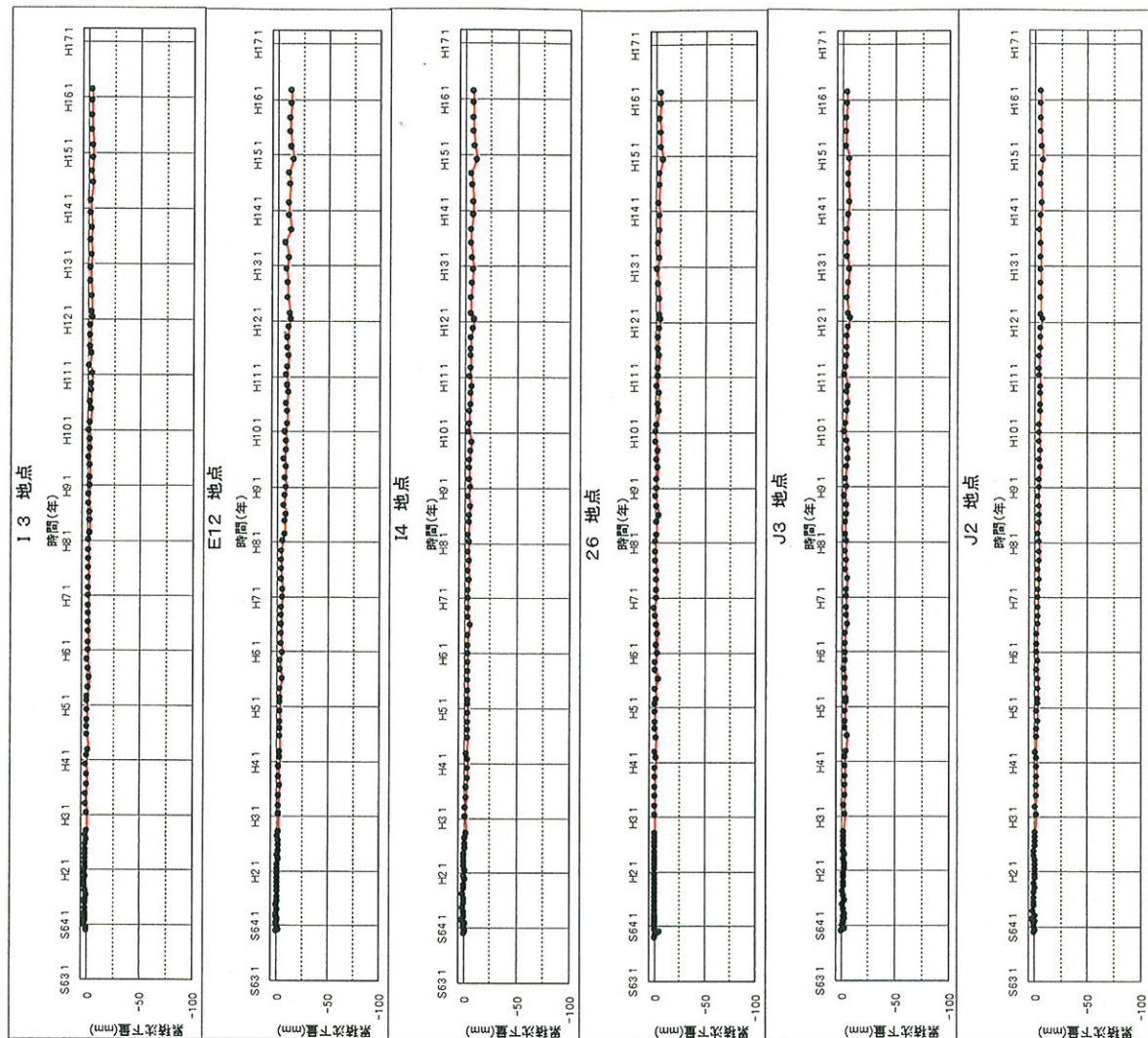


E7 地点
時間(年)



地盤沈下対策部外の代表的な地点における地盤変位図





地盤沈下対策部の代表的な地点における地盤変位図